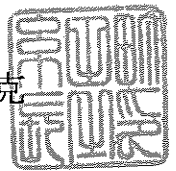


糸建住第 289 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

糸田町長 伊 藤 良 克



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記の
件について、別紙のとおり提出します。

基幹道路の完成について

国道201号は田川地区と都市部とを繋ぐ幹線道路であり、筑豊、特に田川地区は公共交通機関が少なく、自動車への依存が高いため、事故の危険性の少ない、安全な道が必要です。近年の交通増加に伴い、停滞の慢性化の原因となっています。

県道については、田川地区循環道路(添田～赤池線)及び香春～糸田線の建設があり、国道201号へのアクセスの向上が課題となっており、これらの早期完成が隣接する都市部との交流を活性化させ、停滞の解消・人流・物流・情報等の効率化を図る重要な施設へのアクセス強化につながると考えています。

従って、新時代に向けた、田川地区の広域発展・活性化に国道201号バイパス、田川循環道路建設への早期完成にお力添え・一層のご尽力をお願いします。

②－１ 地域の現状と抱える課題

福岡県糸田町

○ 現状

当地域における現状は、昭和30年代後半から昭和40年代初めにかけて石炭産業が崩壊し、地域社会の経済は壊滅的な打撃を受け、若い労働力の激減や鉱害・失業などが残され、石炭六法など国の財政措置と自治体独自の建て直しが推進されてきましたが、今もお、残存鉱害、生活保護世帯を抱えており、将来に向け町財政の苦しさは続くと思慮されます。町道においても、改良・整備及び維持補修等の財源確保に苦慮している状況です。

○ 課題

- ◎ 市町村事業の補助率のアップ
 - ・町道、県道を含め、生活道路の整備
- ◎ 国道201号の整備に伴うアクセス道路の整備
 - ・ 県道添田～赤池線は福岡都市圏と田川地区を短絡にする重要な道路であり国庫補助事業での採択を。
- ◎ 地域間格差の対応
 - ・地方の活性化や企業誘致につながる県道バイパスの整備、広域的アクセス道路の整備。

②－２ 地域の目指すべき将来像

福岡県糸田町

当町においては、町の将来像を「人と自然が親しむ 心やすらぐまち」とし、その理念に基づき各種の町づくりを推進しています。計画の推進には町民の理解はもとより、積極的な参画と行政との協働により取組みを進めるようにしています。

道路行政においては、国道201号・322号を主とする幹線道路への連結する道路の整備をし、安全で快適な体系的道路のネットワークづくり、また、生活道路網の充実と改良による利用者の通勤、通学のアクセスを向上させ、定時性・安全性を確保するなど、ゆとりのある道路整備を行いたいと考えています。また生活道路である町道については、まだまだ改良整備を行っていく箇所が残存しており、その整備と歩道については地域性を取り入れた子供から高齢者・障害者に配慮した整備が求められています。しかし地方分権の時代の入り口に立ったとは云え、財源不足は大きな悩みであり課題です。道路関連財源（道路特定財源において、道路歳出を削減し、余剰歳入については交付税措置とし市町村が直接、事業の行なえる予算の創設）の安定確保に向け、なお一層のご配慮・ご尽力をお願いします。

様式 ④

〇〇都道府県〇〇市町村

[illegible]